NEWS RELEASE

株式会社 大広 広報局広報部
https://www.daiko.co.jp/

2025年(令和7年)12月19日

女性の Well-being を高めるカギは「環境づくり」にあり!?
「SHIBUYA WOMEN' S WELLNESS 調査 2025」公開
～健康充足度が高い渋谷区から、フェムケア・フェムテックの未来を考察～

株式会社大広(本社:東京都港区、代表取締役社長:泉恭雄、以下「大広」)の大広フェムテック・フェムケアラボは、一般社団法人 渋谷未来デザインと共同で、女性の Well-being を高めるヒントを探る独自調査「SHIBUYA WOMEN' S WELLNESS 調査 2025」をリリースします。渋谷区に在住・通勤・通学している女性と一般女性を比較し、健康充足度が高い渋谷区について深堀りすることで、女性の健康課題をよりサポートするためのポイントを探索しました。フェムケア・フェムテックといった女性関連商品・サービスや、健康経営・女性活躍をテーマにしている企業担当者・自治体の方へ向けたレポートです。

「SHIBUYA WOMEN' S WELLNESS 調査 2025」は以下 URL からダウンロードしてご覧いただけます。
https://www.daiko.co.jp/femtech femcare lab/shibuya womens wellness research.pdf

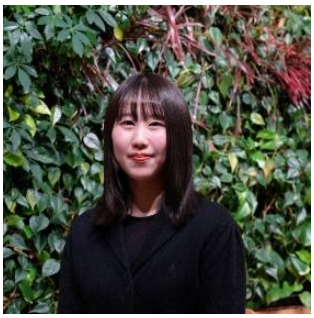
「フェムテック」が新語・流行語大賞にノミネートされてから 4 年。生理・妊娠・更年期といった女性の心身に寄り添う製品やサービスは、ブームを超えて様々な商品・サービス・制度が広がりつつあります。これからさらなる社会浸透を図ることで、よりよく暮らし、働き、支え合う社会に近づきます。
そこで、大広フェムテック・フェムケアラボは、独自生活者調査を行い、生活者のリアルな声や生活実態を踏まえながら、社会に定着し新たな価値を生み出していくためのヒントを探りました。その中でも本調査では、女性活躍をはじめすべての人をエンパワーメントすることに力を入れている渋谷区に着目。環境・行動・意識の3つの側面で「ポジティブサイクル」が回っていることを発見しました。
このような調査をきっかけに、女性の心身の健康課題により対処しやすい社会づくりが進むことを目指し、大広フェムテック・フェムケアラボは情報発信を続けてまいります。

＜上記に関するお問い合わせ＞　株式会社 大広 広報局 広報部
〒105-8658 東京都港区芝 2-14-5 TEL:03-4346-8111 MAIL : info@daiko.co.jp

【担当者コメント】

大広フェムテック・フェムケアラボ　大谷 拓

本レポートは、女性の健康課題にスポットを当てたものですが、その先にある「みんなが生きやすいと感じる社会」のために必要なことも探っていると思います。性別関係なく、ヘルスケアやウェルビーイングに関心がある方にはぜひご一読いただきたいレポートです。



大広フェムテック・フェムケアラボ　佐飛 実弥

私自身、1年前に渋谷区に引っ越してから周囲の環境が変わり、レディースククリニックにとても気軽に通えるようになりました。そのおかげで、自分の身体や心の健康と向き合う時間も少しずつ増えてきたように感じています。いきなり大きく環境を変えることはできませんが、コツコツと心地よい環境を整えていけたらと思いますし、このレポートがその一助になれば嬉しいです。

【調査概要】

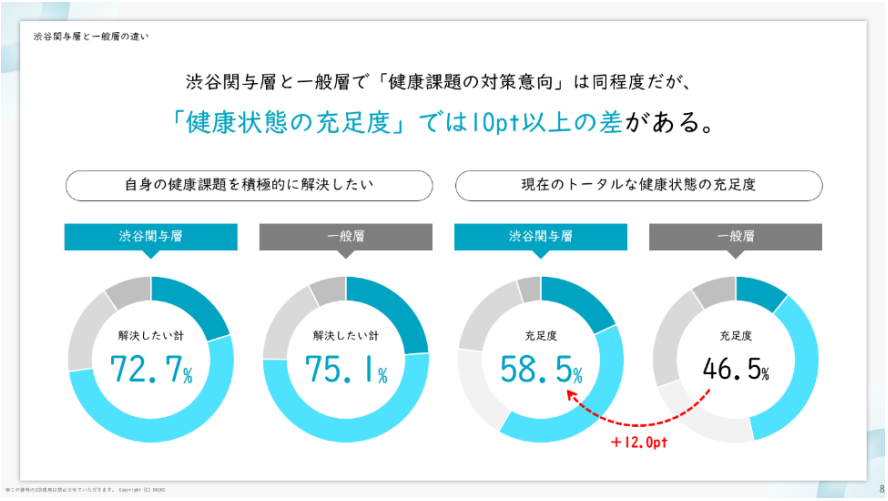
調査対象：①渋谷関与層（渋谷区在住・通勤・通学の女性 15-59 歳）：1240 サンプル
　　②一般層（全国の女性 15-59 歳）：2064 サンプル

調査方法：インターネットリサーチ

調査時期：2025年9月

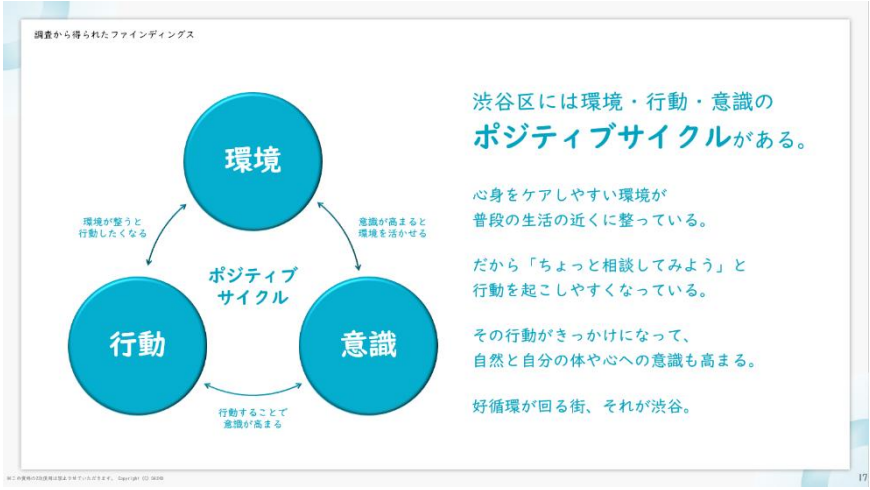
【調査内容】

1、健康充足度において、渋谷関与層と一般層で **10pt 以上の差**がある。



＜上記に関するお問い合わせ＞　株式会社 大広 広報局 広報部
〒105-8658 東京都港区芝 2-14-5 TEL：03-4346-8111 MAIL：info@daiko.co.jp

2、渋谷区には環境・行動・意識の<u>ポジティブサイクル</u>がある。



3、渋谷区 **松澤香副区長** にインタビューを実施。

意識も、環境も、相乗効果が生まれる街を目指して。

ー渋谷区 松澤香副区長インタビュー

Q：今回のレポート結果について、どのような印象をお持ちですか？

満足度が高いのはありがたいのですが、「環境が整っている」と感じるかどうかは、実は個人の「意識」によって左右される部分が大きいと思っています。サポート体制や相談窓口があっても、自分の中に問題意識がなければ、環境が整っているとは感じにくい。つまり、健康意識の高さと環境認識は相関していると感じます。自由記述欄に「婦人科検診の案内がありがたい」という声もありましたが、私としてはもっと受診率を上げていきたい気持ちがあります。いろいろな連絡をしても、なかなか行動に結びつかない――その点をどう変えていくかが課題です。

環境づくりはもちろん重要ですが、それと同時に、男女問わず「自分のメンタルと身体の健康を早くから意識する」ことが欠かせないと思います。

Q：渋谷区では、女性の健康に関してどのような取り組みを進めていますか？

今、特に注力しているのが「思春期検診・相談」です。婦人科の先生と一緒に、小中学生が気軽に婦人科にかかれるような仕組みを検討しています。医師会とも相談しながら進めているところです。

昔は「婦人科＝予期しない妊娠」というイメージがありましたが、そうではなく、体調が悪いとか、生理が不順だといった時に気軽に行ける場所であるべきなんです。医師と相談したうえで痛み止めやピルを選択することも十分に考えられる時代です。

生理が重いというのは病気のサインであることも多い。だからこそ、早い段階から婦人科に相談できる文化をつくることが大切だと思っています。

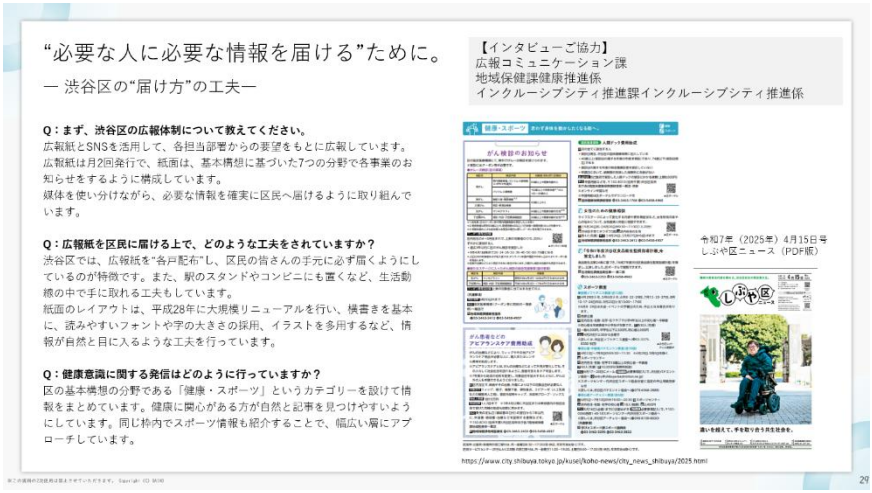
実際、女性健康相談の枠がすぐに埋まり、キャンセル待ちが出るほどの状況で、医師会とも連携しながら体制強化を進めているところです。

Q：生理用品の提供など、現場での取り組みも進んでいると伺いました。

はい。今は生理用ナプキンを公共施設や学校で配布する実証を行っています。「生理の貧困」や「突然の生理で困った」という声に応えたいと思っています。ただ、学校では「トイレに置くのか」「保健室に置くのか」で意見が分かれます。保健の先生は「相談につなげたいから保健室に」と言いますが、生徒からは「恥ずかしくて取りに行けない」という声もある。その調整が難しいところですね。こうした細やかな環境づくりこそが、文化を変えていく第一歩だと思っています。

20

4、届け方の工夫について、渋谷区ご担当者様にヒアリングを実施。



“必要な人に必要な情報を届ける”ために。

ー 渋谷区の“届け方”の工夫ー

【インタビューご協力】
広報コミュニケーション課
地域保健課健康推進係
インクルーシブシティ推進課インクルーシブシティ推進係

Q：まず、渋谷区の広報体制について教えてください。

広報紙とSNSを活用して、各担当部署からの要望をもとに広報しています。

広報紙は月2回発行で、紙面は、基本構想に基づいた7つの分野で各事業のお知らせをするように構成しています。

媒体を使い分けながら、必要な情報を確実に区民へ届けるように取り組んでいます。

Q：広報紙を区民に届ける上で、どのような工夫をされていますか？

渋谷区では、広報紙を“各戸配布”し、区民の皆さんの手元に必ず届くようにしているのが特徴です。また、駅のスタンドやコンビニにも置くなど、生活動線の中で手に取れる工夫もしています。

紙面のレイアウトは、平成28年に大規模リニューアルを行い、横書きを基本に、読みやすいフォントや字の大きさの採用、イラストを多用するなど、情報が自然と目に入るような工夫を行っています。

Q：健康意識に関する発信はどのように行っていますか？

区の基本構想の分野である「健康・スポーツ」というカテゴリーを設けて情報をまとめています。健康に関心がある方が自然と記事を見つけやすいようにしています。同じ枠内でスポーツ情報も紹介することで、幅広い層にアプローチしています。

令和7年（2025年）4月15日号
しぶや区ニュース（PDF版）

https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/koho-news/city_news_shibuya/2025.html

29

＜上記に関するお問い合わせ＞　株式会社 大広 広報局 広報部
〒105-8658 東京都港区芝 2-14-5 TEL:03-4346-8111 MAIL：info@daiko.co.jp

「SHIBUYA WOMEN' S WELLNESS 調査 2025」の詳細は
以下 URL からダウンロードしてご覧いただけます。
https://www.daiko.co.jp/femtech_femcare_lab/shibuya_womens_wellness_research.pdf

【一般社団法人 渋谷未来デザイン 概要】
ダイバーシティとインクルージョンを基本に、渋谷に住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人など、渋谷に集う多様な人々のアイデアや才能を、領域を越えて収集し、オープンイノベーションにより社会的課題の解決策と可能性をデザインする産官学民連携組織。都市生活の新たな可能性として、渋谷から世界に向けて提示することで、渋谷区のみならず社会全体の持続発展につながることを目指している。

＜上記に関するお問い合わせ＞　株式会社 大広 広報局 広報部
〒105-8658 東京都港区芝 2-14-5 TEL:03-4346-8111 MAIL : info@daiko.co.jp